

Architect's Gallery

わたしのフォトメモ——街並み編 | 山下保博 | Yasuhiro Yamashita



福祉のまち ベーテル

ドイツ・ビーレフェルト市の一角に、数千人が住まうベーテルというまちがある。

このまちの起源は、1867年にキリスト教の社会福祉活動として設立された、てんかん患者のための施設に由来する。第二次世界大戦時には、ドイツ全土でナチスによるユダヤ人と非健常者の抹殺を目的とした殺害政策があったが、ベーテルはこれに強く反対し、命の尊厳を守り抜いた。

ベーテルには健常者と非健常者の区別はなく、誰もが人として生きる社会がある。

これこそが、世界中から福祉の理想郷といわれる所以である。

2009年秋、ベーテルの理事長を務めるポール牧師を訪ねた。

牧師のお話を伺い、まちを散策する中で、

まちというものは、建築的な景観ではなく、そこに暮らす人々の空気感によって構成されるのだと強く感じた。

撮影：2009年

やました・やすひろ——建築家/アトリエ・天工人代表

1960年生まれ。1986年、芝浦工業大学大学院修士課程修了。幾つかの設計事務所を経て、1991年、山下海建築研究所設立。1995年、アトリエ・天工人(テクト)に改称。2010年より慶應義塾大学大学院非常勤講師。

主な作品：チカニマルコウブツ[2006]、釜山エコセンター[2007]、Twin-Bricks[2008]、ゴンドール日本館[2009]、A-ring[2009]、YACHIYO—space in Hayama[2009]など。

主な著書：『天工人本』[新建築社/2006]、『PA』[Archiworld Co.,Ltd.(韓国)/2008]、『天工人流—仕事を生み出す設計事務所のつくりかた』[彰国社/2009]、

『アトリエ・天工人/素材・構法からの建築』アトリエ・天工人編著[彰国社/2010]など。